

シニア専修コース けやき便り

第 10 号

編集発行

園田学園女子大学

シニア専修コース

「けやき便り」編集クラブ



「感動できるころ」

総合生涯学習センター所長 木村 保司

私たちは、いつまで感動できるだろうか？英国の詩人ワーズワス（William Wordsworth, 1770-1850）は、虹を見て感動したときの様子を次のように描写している。

幼い時も感動した（So was it when my life began,）

大人である今も感動している（So is it now I am a man,）

歳老いても感動するだろう（So be it when I shall grow old,）

さもなくば、死んだほうがよい！（Or let me die!）

私たちが生きている証として何かに「感動」できることほど尊いことはない、と思っている。感動できることは人によって千差万別だ。遙か遠き高校時代のこと。放課後、「お好み屋」に寄り道して時間を過ごしたものだが、そこのオバちゃんがいつも「あんたら何見ても聞いても笑ってばかりでええねえ！」と屈託ない笑顔で焼きそばを作ってくれていた。小学・中学・高校と友人の他愛ないゴシップや小さな武勇伝に感動し、オバちゃんが女手一つで息子さんを育ててきた苦労話に感心したり納得したりした。楽しかった。

学校を出て社会に入り暫くすると、自己防衛ばかりで小賢しい自己中な自分を明確に意識するようになった。『草枕』の「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。」—そんなことを書いた偉人もいた。様々な人たちがもつ人生観・人生模様のなかでワーズワスは虹を見たのだ。そうして感動できるかどうかを問うている。汎神論者であった当時の彼は、虹の背景に浮かぶ神との一体感を強烈に感じたことでもあろう。その時 32 歳。さらにこう付け加えた。

子供は大人の父親だ（The Child is father of the Man,）と。

これは子供時代の心が基調となって大人の思想感情が生み出される、という事だが、果たして私はいつまで「感動」できるのであろうか。思えば身震いする。あなたはいつまで？

目 次

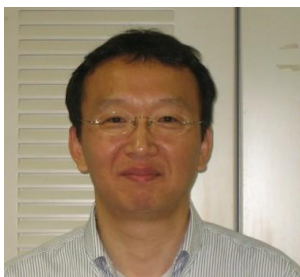
表紙 「感動できるころ」	木村センター所長	P1
先生方からのメッセージ	講師の方々	P3
総合生涯学習センタースタッフ紹介	総合生涯学習センター	P8
平成25年度卒業式	研究生 中村米三郎	P9
3年間を振り返って	研究生 今池 純江	P10
平成26年度入学式	研究生 中村米三郎	P11
新たな出会いを求めて	文歴1年 石田 進	P12
入学に際して	文歴1年 合田 一弘	P12
「文学歴史学科に入学しての寄せ書き」	文歴1年 有志	P12
生々 流転	情報1年 糸井 忠通	P14
わくわく、ドキドキ	情報1年 南 佐貴子	P14
とうとうシニアに入学しました	国際1年 水上 陽栄	P15
園田学園に学ぶ楽しさ	文歴2年 相田 晴夫	P15
縁ありて	国際2年 井上 聖明	P16
ここは私のパラダイス	情報2年 徳田 將之	P16
平成25年度文学歴史学科1年生の新年会	文歴2年 青木 利明	P17
平成25年度文学歴史学科の学外講義	文歴2年 青木 利明	P18
国際文化 学習発表会と合同忘年会	国際2年 樽井 敏彦	P19
伊勢志摩バス旅行記	国際3年 川西 公雄	P20
「園田・民博連携講座」を受講して	研究生 今池 純江	P21
研究協力「手洗い教室」	人間看護学科 山本恭子教授他	P24
「Center of Community」	地域連携推進機構 榎本 匡晃	P25
初笑い 天満天神繁昌亭	研究生 水原 剛	P26
朗朗と	情報2年 芝田 幸子	P26
高山植物と花を楽しむ佐渡島	文歴3年 橋本 秀明	P27
紫式部展と石山寺散策	研究生 遠藤 明	P29
「けやき便り」編集クラブの新代表として	国際2年 樽井 敏彦	P30
HPからの全号の照会について	「けやき便り」編集クラブ	P31

シニア専修コースでご指導を頂く先生方からのメッセージ

なお、敬称は省略、順序はあいうえお順で掲載させて頂いています。

1 段目	お名前	2 段目	お写真	3 段目	役職名
4 段目	ご担当科目	5 段目	メッセージ		

文学歴史学科、国際文化学科

井上 勝志	岩崎 日出男	大江 篤
		
本学教授 近松研究所所長	本学教授	本学教授
近世文学講読	仏教の歴史と思想（前期） 漢詩・漢文の世界（後期）	日本史学（1）
「近世文学を読む」というとき、作品内容を正しく読むことだけでなく、作者の創作意図や意識、出版や上演、あるいは読者や観客なども含めて、様々な問題を読み取ることが必要です。そして、それが楽しいのです。	私たちの生活に身近な仏教行事（お盆・お彼岸・49日など）を通して、仏教の思想を講義します。また漢詩や故事成語を中心とした、日本人にもなじみ深い作品から中国の歴史や文学を学んで戴きたいと思います。	今年度は「日本史学（1）」を担当いたします。1学期は「古代の東西交流史」、2学期は「仏像をめぐる伝承史」がテーマです。史料に向き合い、体感できる歴史学を目指します。
河合 利光	桐藤 薫	久下 隆史
		
本学名誉教授 大阪大学講師	本学非常勤講師	元県立北摂三田高校長 民俗芸能学会評議員
文化人類学入門 アジア太平洋文化論（前期） 国際総合研究	東洋史概説	日本史学（3）
本年度もよろしくお願い致します。園田・民博連携講座でもお会いします。	歴史を学ぶことを通して他者を理解し、ひいては自己を理解することに繋がればと願っております。	P7に記載しています。

文学歴史学科、国際文化学科

久禮 旦雄	桑原 一歌	高 賛侑
		
京都産業大学非常勤講師	園田学園女子大学 シニア専修コース講師	ノンフィクション作家
日本史学 (2)	日本文学 (2) 日本古典文学研究Ⅱ	韓国の歴史と文化
日本古代国家が編纂した史書である『続日本紀』にみえる菟卒伝(伝記)を読んでいきます。奈良時代の人々の生き方に触れると共に、『続日本紀』の編纂意識を読み取っていきたいと思っています。	「日本文学 (2)」では『源氏物語』の講読を、「日本古典文学研究Ⅱ」では『枕草子』の講読を担当いたします。どうぞよろしくお願いいたします。	近年めざましく発展する韓流ブーム。でも「近くて遠い国」といわれてきた韓国の実像はさほど知られていないのでは。本講座では、朝鮮半島の歴史や文化を反映した映画・映像の秀作を観賞しながら、韓国社会を理解し、より良い日韓関係のありようについて考えます。
島田 とよ子	谷川 泰教	本城 二郎
		
本 学 教 授	高野山大学名誉教授	関西チェコ／スロバキア協会理事 大阪大学言語文化研究科 非常勤講師 (チェコ語担当)
日本文学 (1)	仏典を読む	異文化理解 (後期)
日本の古典文学の魅力をお話し出来たら、と思っています。	書店では一般向けの仏教書やブッダに関する本を多く見かけますが、できるならブッダのナマの言葉に近いものを自分の目と心で読んでみたいものです。そのお手伝いができたらと願っています。	私は、縁あって、チェコに7年、スロバキアに2年留学し、現在、中東欧の言語文化研究を続けています。皆様も、外国滞在経験者が多いと聞き及んでいます。授業では、中東欧文化を一例として、異文化理解が深められるよう共に頑張りましょう！

文学歴史学科、国際文化学科		
前田 武彦	松山 利夫	山口 悟
		
神戸国際大学教授	平安女学院大学特任教授 国立民族学博物館名誉教授	大阪学院大学准教授
国際事情	多文化共生論 日本の風土と文化	ヨーロッパの社会と文化 アメリカの社会と文化 西洋文化特論
一回の授業で一国ずつ、世界の さまざまな国の社会や生活や 文化を学習します。 観光学者として、前田の各国で の体験談もお伝えできればと 考えています。	仲間をふやしましょう！ 知的な雰囲気を楽しみましょ う。	歴史を楽しみましょう。
吉村 稠	吉本 康子	
		
本学名誉教授	国立民族学博物館外来研究員	
日本文学（3） 日本近現代文学研究Ⅰ 日本近現代文学研究Ⅱ	アジア太平洋文化論（後期）	
人生、何でもある！ 何でもある、文学の世界！ そのだ『シニア専』を楽しんで ください。	日本とベトナムの国交が樹立し て40年が過ぎました。互いに 重要なパートナーとなりつつあ る日越関係とベトナム文化の事 例を通して、異文化理解の方法 を学びましょう。	

情 報 学 科

上 梶 英之



本学非常勤講師

課題研究

授業では画像処理を学んでもらい、最終的には持参してもらった写真に処理を施し、アルバムにすることを目標としています。
コンピュータとデジカメの普及によって画像処理は決してプロのための技術ではなくなっています。
この機会に是非習得していただきたいと思います。

小田 桐 良一



本 学 教 授

応用情報、情報特論（前期）
プログラミング（後期）

応用情報の前期を担当しています小田桐良一です。
授業では、PowerPoint を用いた口頭発表を前提としたスライド作成や、大規模なデータを効率よく管理するデータベースの構築や検索の仕組みといった分野の実習を行います。

垣 東 弘一



本 学 教 授

基礎情報（前期）
I C Tリーダー技法（後期）

P7に記載しています。

清 水 五男



本学非常勤講師

プログラミング（前期）
基礎情報（後期）

皆さんは、情報に関することを学ばれる機会は少なかったと思いますが、本学でパソコンが実用的に使えるように学習に励んでください。
学習の上で大事なものは、基礎・基本をしっかりと身につけることです。情報教育センターを十分に活用し、情報化社会への対応力を育んでください。

野 口 聡



本学非常勤講師

基礎演習Ⅰ（前期）インターネット活用（前期）
基礎演習Ⅱ（後期）応用情報（後期）

コンピュータを扱う授業を担当しています。受講者は、コンピュータを扱うことに興味はあるけれど、抵抗感がある人が少なくないと思います。私の授業は、受講者に楽しみながらコンピュータの扱いに慣れて頂けるようにデザインしています。頑張りますので、よろしくお願い致します

堀 田 博史



本 学 教 授

情報特論（前期）
インターネット活用（後期）

学び続けることで、新たな興味が芽生えます。一緒に学び続けましょう。よろしくお願いいたします。

情 報 学 科		
山本 恒 (ひさし)	伊東 美樹	西木 卓也
		
本学名誉教授	情報教育センターT A	情報教育センターT A
応用演習 I ・ 応用演習 II	基礎演習 インターネット活用	応用情報 (前期) プログラミング
学びは人生を豊かにします。特に自ら考えながら試行錯誤を繰り返して得た知見は、いろんな場面で応用できる生きたものになります。また、せっかく共に学んでいるのですから、共に高まろうとする学び方も大切です。	T Aの伊東です。私自身まだまだ勉強不足でわからないことも沢山ありますが、皆様と一緒に勉強していきたいと思います。皆様が楽しみながらパソコンを学べるようにサポートができるよう頑張ります。これから、よろしくお願いします。	情報教育で先生の補助をする西木卓也と申します。新任になったばかりで至らないことが多々あるかもしれませんが、シニアで学習される皆様のご期待に応えられるように精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。
堀越 直穂	【久下 隆史先生メッセージ】 学びたい時に学べることほど楽しいことはありません。日々の学びで増えるのは、体脂肪ではなく新しい知識です。この知識の増加は、一回りも二回りも自分を伸ばしてくれます。ぜひ、シニア専修コースで学びを深め、自らに磨きをかけるとともに友人を増やしてください。私も、皆さんとともに学びを楽しみたいと思います。	
情報教育センターT A	【垣東 弘一先生メッセージ】 現代の情報化社会において、コンピュータの正しい知識と操作が行えることは大切なことです。これからの講座を通して、パソコンの基礎から応用まで学習していただき、パソコンを使ったよりよい生活が送れるようになっていただきたいと思います。難しい内容もあるかもしれませんが、最後まで私たちとともに頑張りましょう！	
情報特論 (前期)、基礎情報 応用演習 I はじめまして。パソコンの授業は楽しい！と思っていただけるよう、一緒に悩んで考えて頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。		

平成26年度総合生涯学習センターのスタッフの皆さん



入学式から1ヶ月余り過ぎ、緑豊かな季節となりました。1年生のみなさまには少しは慣れていただけたでしょうか。

現在 330 名余りのシニアのみなさまが学内を利用して下さっています。大学という場所でのシニアの学びはいかがでしょうか。いろいろなご要望もあるかと思いますが、できるところは改善しながら勤めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

総合生涯学習センターからのお知らせ

○クラス委員について

全ての学科・学年のクラス委員が決まりましたら、6月下旬に一度合同クラス委員会を開催いたします。日時・場所等は追って連絡いたします。

○研究生のみなさまへ

180 名余りの研究生のみなさまへの連絡は、個別のクリアファイルで行っています。この方法を始めて3年目になり、だんだんみなさまにご理解いただけるようになってきました。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。
また、研究生も委員を決めて連絡会のようなものを開催したいと思っています。改めてご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。

3月14日（金）平成25年度シニア専修コース卒業式が行われました

午後1時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、大会議室（30周年記念館3階）で執り行われ、昨年につづき富永学長から卒業証書が卒業生一人一人に授与されました。

卒業生は、文学歴史学科…11名、国際文化学科…16名、情報学科…4名でした。



卒業式に際してお祝いの言葉を述べられる富永学長

卒業式風景



文学歴史学科卒業生の皆様方



国際文化学科卒業生の皆様方



情報学科卒業生の皆様方



けやきコーラス部は歌でお祝い

3年間を振り返って

研究生 今池 純江

シニア専修コース国際文化学科を今年、無事卒業しました。入学前のことを思い出しますと、うそのようです。シニア専修コース入学前に受講していたカルチャースクールの講座がなくなってしまうという事態になり、同じ講座を受講していたSさんに「これからどうしようかしら」と話しかけました。Sさんは「こんな学校があるの。今1年生なの」「その学校はどこにあるの?」「塚口にある園田女子大」「エー!!」何と我が家の目と鼻の先。それから詳しくシニア専修コースのことを伺いました。今からシニア専修コース30周年記念行事に行くということで一緒に連れて行ってもらいました。後日願書を貰いましたが、まだ、申し込もうかどうか迷っていました。その後、道でSさんにばったり出会い「申し込んだ?」その一言に背中を押され入学を決めました。さてどの学科? 今まで自分がしてきた事と全く違うこと、知らないことを学ぼうと思い国際文化学科に決めました。

さあ1年生。文化人類学。なにそれ? 何が何だかさっぱりでしたが、授業を受けるなかで、文化って何だろうと思い始めていました。この疑問が3年間この学校で過ごすことができた1つの理由かもしれません。

授業だけでは淋しいと思い、合唱経験もないのにコーラス部の練習を覗いてみることにしました。練習曲は劇団四季「キャッツ」の中で歌われていた「Memory

(メモリー)」でした。客席から飛び出した猫のように、無謀にもその場で入部してしまいました。



「コーラス部演奏会」

楽しくて優しい先生や先輩方に囲まれ、声を重ね合わせ1つの曲を作り上げていく練習がとても楽しかったです。これもまた、卒業にこぎ着けることのできた理由の1つです。

2年生では国際文化演習1を受講しました。大学に入学したのだからゼミのような授業があれば良いのにと感じていたので迷わず受講を決めました。初めて経験したフィールドワーク。河合先生の横にくっついて物の見方を教わりました。その後、少しずつメモのようなレポートを作成しながら、受講生仲間と何度もフィールドワークに出かけました。楽しい思い出がたくさんできました。河合先生は、私の能力に合わせて指導して下さい、励まして下さいました。仲間にも随分助けてもらい、先生に大変お世話になり、レポートを完成できた事は大きな喜びでした。



「生駒でフィールドワーク」

3年生では、引き続き国際文化演習2を受講しました。また何度もフィールドワークに出かけました。またフィールドワークをもとに発表会をしました。受講生仲間と幾日も遅くまで残って準備を進めました。こうして仲間が、助け合いながら1つのことをするという事は、喜びにつながります。この喜びが卒業に繋がった最大の理由です。



「国際文化演習2授業風景」



「国際文化学科発表会」

授業で国立民族学博物館副館長の岸上伸啓先生が文化人類学とは何か? (1) フィールドワークによって文化を研究する。文化とは、特定の人間集団の生活様式である。(2) 当事者の視点から理解する。(3) 文化相対主義と比較。であると講義して下さいました。3年間学んだ今、ほんの少しこの意味が、ぼんやりですが理解できるようになりました。研究生としてもう少し頑張ってみようと思います。

4月11日（金）平成26年度シニア専修コース入学式が行われました

午後2時から富永学長をはじめご来賓の方々のご臨席を頂き、講堂（1号館4階）で執り行われ、入学許可証が授与されました。

新入生は、文学歴史学科…15名、国際文化学科…13名、情報学科…18名です。



入学のお祝いの言葉を述べられる富永学長

富永学長から入学許可証を授与される新入生代表



文学歴史学科 石田さん



国際文化学科 一村さん



情報学科 安里さん



会場での新入生と在校生



クラブ紹介 コーラス部



クラブ紹介 写真倶楽部



クラブ紹介 ITを楽しむ会、
テニス同好会、遊歩クラブ



クラブ紹介 カラオケクラブ



クラブ紹介「けやき便り」編集クラブ

平成26年度新入生・先輩からのメッセージ

新入生のメッセージ

新たな出会いを求めて

文学歴史学科1年 石田 進

正門からのケヤキ並木が一斉に芽吹き、若葉のトンネルをつくっています。この緑に映える並木の中を通い始めて1ヶ月。地域の生涯教育で、35年の歴史を誇る本校で学ぶことに感謝し、今はこれからの充実した学生生活への期待感で一杯です。

ところで、5年前にリタイアした時、趣味なし、特技なし、地域との繋がりなし、仕事が全ての私にとっては、ゼロからのスタートでした。

それから、阪神シニアカレッジ園芸学科で自然に親しむ心を、大阪府高齢者大学では歴史を学びましたが、その結果として遺物・遺跡を中心とした考古学と文献史学を軸に、文学や自然科学を多角的に総合して古代を捉える「古代学」に興味を持つことに。以来、自然・植物と万葉の歌、その背景にある歴史を多面的に学ぶ楽しさを発見しました。

これを生涯の趣味として深化させていくためにも、文学歴史学科で、楽しみながら勉強したいものです。また15人の同級生を始めとして、多くの方との仲間作り等を通して、楽しい学生生活を謳歌したいと思っています。

目標は、無理をせず、健康で、楽しく、多くの仲間と、深く学ぶ。その結果として、”新たな趣味一つ見つけた”を目指して。

入学に際して

文学歴史学科1年 合田 一弘

学生時代に勉強していないんだから、会社を辞めたら本気で勉強してみたらと、妻に乘せられてその気になった。今更本気の勉強とはどういうことかと、考えているところへ富岡製糸工

場が世界遺産になるというニュースが飛び込んできた。

新聞もテレビもここは、労働管理が行き届いていて、ここで働くことは当時の女性のあこがれであるとまで囁いていた。待てよ！我々の時代はそういう風に聞いてなかった。おおよそ「ああ、野麦峠」の映画のように理解していた。

私が通っていた大阪市内の中学校は、某大手紡績会社の工場跡地の一部を使っていた。当時、正門近くの塀はかなり高かった様な記憶がある。誰かが、なぜ塀がそんなに高いのかと質問したとき、先生がすかさず「女工が逃げださないためだ」と答えた。それが正しいことかどうかわからないが、世界遺産のニュースを、今聞いている子供たちは我々とは、また違った印象を持つのであろうと思う。どちらにしても、事実を見つめる目を養う勉強をしたいものだ。

「文学歴史学科に入学しての寄せ書き」

文学歴史学科1年 有志

常々思っていた事

毎日じゃなく、近くで好きな科目だけ勉強して、図書館にいる素敵な本達との出会い。しかも試験のない大学で学びたいなあ〜と！！ そんな都合のいい大学なんて絶対ありっこないと思っていたけど、ちゃんと見つかりました。それもタイミング良く退職後に… 学ぶ事の喜びを見つけました。

伊藤 幸子

学生時代にしっかり勉強していなかったの
で、自分の国の歴史を学び直したいと思い、この学校を選びました。

河野 和子

古典、歴史に興味を覚えるようになり、少しずつ読んでおります。図書館が自宅近くにあり、行くのが楽しくなりました。

岸本 美也子

「文学と歴史」こんなに好きだったのかな？
 と思える日々です。毎回の授業にワクワクして
 います。 北澤 美津子

若い頃とは比べものにならないくらい熱心に
 講義を受けています。 高橋 京子

阪神シニアカレッジ卒業後は園田シニアコー
 スに行きたいと考えていた。入学後の文歴の先
 生方の講義は古い時代に吸い込まれていく感じ
 で素晴らしい。文歴に関する知識を深め、今後
 の人生を豊かなものにして行きたい。
 藤原 幸雄

セカンドライフの『学び』… 学生募集の案内
 で ～じっくり、深く学びたい方はぜひ ご入
 学下さい～ この言葉に惹かれて入学しまし
 た。 本田 由紀子

大学に入学してから会社人を卒業する迄、ず
 っと理系な人生を生きてきましたが、好きな歴
 史とかなり苦手な文学の2本立てで3年間過ご
 したいと思います。 森川 博司

香道を通して書・和歌・古典文学・漢詩が出て
 きて、これは必須と知った。楽しく、もっと深く
 学びたいと思っていたら友達に園田で歴史学
 科・古典文学があると教えてもらい、島田先生の
 講義を見学して入学を決めました。

山田 弘子

日本史の講義は中学以来です。シルバー世代は
 時間と年金があって講義のインプットはそれな
 りに簡単ですが、実学と違ってアウトプット先を
 見つけるのが難しく、それが頭の活性化だと思っ
 ています。 吉井 明夫

第2の学生生活？！を皆様と共に過ごしたい
 と思います。 吉岡 美恵子

(文学歴史学科1年生の皆さま、入学にあたって
 の寄せ書きどうもありがとうございました。

けやき便り編集クラブ)

恋色の若芽もえ立つけやき道



《 けやきの若芽は独特の色である。内から内からにじみ
 出るようなほの赤い色。その若芽のけやきアベニューを歩
 いているとき、ふと「あっ、これは恋色だ」と気づいた。
 恋とは異性への思いだけでなく、何かを慕いなつかしむ切
 実で初々しい気持ちである。私はそんな恋色のけやき道が、
 大学の外のはるかまで、すなわち皆さんの生涯を貫く道で
 あってほしいと思った。》・・・ご存知でしょうか？ 正
 門を入った左側にこの句碑があります。一谷定之丞前学長
 の思いがこもった句と言葉。是非足を留めてゆっくりご覧
 ください・・・。

生々 流転

情報学科1年 糸井 忠通

昭和28年東京の大学を卒業、社会に第一歩を踏み出しました。卒業する前年、南北対立の朝鮮戦争が勃発し戦争が激しくなるなか、日本はその特需で経済活動が目覚ましく右肩上がりの状況を呈していました。翌年その戦争が終結すると、その反動で経済活動が停滞し、最悪の社会状況の中での卒業となりました。

大学の掲示板に張り出される求人案内も少なく、不安の時を過ごしていましたが、久し振りに学校の掲示板に張り出された会社を受験。面接会場には20数名が応募、合格発表は数週間後のこと、待つことしばらく、合格通知が舞い込み指定日に心をときめかせながら入社。その会社は全国に支店を置く大手の企業で東京本社に採用されました。

数年経った或る日、上司から「将来幹部になる為には、支店勤務が重要」と指導され、社命により支店配属になりました。北は北海道、南は九州と全国を点で結び、直線を書いたり円を描きながら本支店を勤務し、大阪支店で定年を迎え、縁あって関西に居を構えることになりました。

毎日が日曜日、暇をもてあそんでいる時、朝日新聞のカメラ教室の募集記事が目に残り、「アサヒカメラ写真教室」に入会しました。その教室でたまたま連続して数年にわたり年度賞をとり続けていると、同僚から「私の所属している教室で世話して欲しい」との話についで乗ってしまい、高槻、摂津、大阪と教室が広がりましたが、年齢的にも体力の限界を感じ、一つ減らし二つ減らしやっとの思いで85歳を区切りに総ての教室から身を引き、念願の園田学園女子大シニア専修コース情報学科に入学することができました。

皆様宜しくご支援下さいますようお願い申し上げます。

わくわく、ドキドキ

情報学科1年 南 佐貴子

いつの頃からか物忘れ、人の名前（政治家、芸能人等々）がすぐに出てこなかったり、思い出せなかったり。確実に脳は衰えボケまっしぐら?! 自覚できているのでまだ大丈夫と思いながらも少しでも脳を活性化させる方法はないものかと思案の日々に、園田学園生涯学習センターシニア専修コースの記事を目にし、見学させていただきました。

学園案内で図書館、食堂等々の施設を若いお嬢さん達と同じ空間で利用、そして学べると思うとわくわく、ドキドキ。ヤフーで検索（キー打ちに時間がかかります）できる程度の低レベルですが情報学科に興味を持ちました。

“いつやるの？ 今でしょ!!”のフレーズがその時頭によぎりました。そう思った時がその時なんですよね。

ついていけなく挫折してしまうかもと不安一杯ですが、無謀にもチャレンジする事を決めました。先輩の方々から大いに刺激を受け、楽しい学園生活が送れるように願って、明るく意欲ある老後をめざし一歩前進します。ファイトです。

諸先生方、皆様、よろしくお願いいたします。



とうとうシニアに入学しました

国際文化学科1年 水上 陽栄

永年勤めた会社を退職後に何をするか、考えた。体力の続く限り、仕事を続けようとのモットーで塚口にある職場に週2～3日、勤めている。仕事もだいぶ慣れてきて、余裕がでてきた。もっと何かしたい。これまでの人生を振り返った。一番楽しかったことは何だろう。そうだ！仕事と勉学に明け暮れた学生時代だった。もう一度青春に戻ろう。園田学園女子大学はちょうど通勤途上にあり、思い切って訪問した。

梶井課長から丁寧な説明があり、キャンパスを案内された。約40年ぶりの教室、学生食堂、図書館、近松研究所など。特に図書館や近松研究所には蔵書がずっしり。自分の学生時代と違ってAVブースもあってとにかく広い。すごい！感動した。

記憶力の衰えを感じる自分が授業についていけるだろうかと不安もあった。今までの自分を振り返り、何をしたいか自問した。“研究”というキーワードだった。キャンパスを見学した時、梶井課長は話された。「研究生で10年にもなる学生がいる」。そうだ！！自分もそうしよう。それに近づこうと入学を決意した。

4月11日、入学式で自分の名前が呼ばれ緊張した。学長、理事長らの挨拶に感激。とうとう入学した。3年間は頑張ろうと。

1. 日本の歴史について深く学びたい。
2. 日本人とは何か、日本はこれからどうなっていくのか。学問的にいろいろ追及していきたい。
3. 学習することによって幅広い教養を取得し、充実した人生をすごしたい。
4. ライフワークとなるような研究テーマをみつきたい。
5. クラブ活動にも積極的に参加し、仲間(友人)をつくりたい。

先輩からのメッセージ

園田学園に学ぶ楽しさ

文学歴史学科2年 相田 晴夫

1年生の皆様、ご入学おめでとうございます。今年もまた桜の季節に、新しい出会いが巡ってきました。一年をふりかえり、私の感じたことを記してみます。

「日本文学Ⅰ」では、『源氏物語』以前に書かれた『竹取物語』など6つの物語について、掘り下げた講義を聴き、私は歌物語の『伊勢物語』の面白さに魅力を感じました。「日本史学Ⅰ」では、前半は、菅原道真など古代の政争の敗者から見た歴史で、興味を覚え、史料の『続日本紀』を読む時には高揚感がありました。後半は、古代人と神との係わりがテーマで、伊勢神宮の式年遷宮の年でもあり、日本人と神を考える機会になりました。

園田学園に学ぶ楽しさって何でしょうか？受講のために外出します。年に52回の外出の機会が生まれます。教室に入れば、同じ志の仲間に出会えます。働きを終え、子育てを終えた仲間と共に先生の下で学べます。図書館に行けば、本を借りたり、選書に参加したり、他の教育機関のセミナー案内を入手したり、ができます。生協の売店では、七夕と師走に本が15%引で買えます。懇親会もあります。二度開きました。お一人お一人の人生が凝縮された自己紹介は、新鮮で圧巻でした。ここには、学ぶことを楽しむための仕組みが散りばめられています。

『日本書紀』が編纂されて1300年、『古今和歌集』ができて1100年、『源氏物語』が書かれて1000年。私は、一年間講義を聴く中で、書物を後世に伝えた藤原定家など数知れない先人達の熱い思いに初めて気づきました。

芭蕉は、旅に立つ日、「旅人と我名よばれん初時雨」と心躍る思いを句にしました。私は「学生と我名よばれん」の心で大学に通っています。1年生の皆様、どうぞ楽しい学園生活をお過ごしください。

縁ありて

国際文化学科2年 井上 聖明

随分以前 60 歳定年を控えた者を対象のセミナーを受けましたところ、必ずある質問（仕事が無くなったら毎日何をして過しますか？）に思わず絶句、趣味も何も無い自分に気づきました。

以来慌てて色々な習い事を始め、その頃から園田学園のシニア専修コース資料も取り寄せておりましたが、幸か不幸か定年も5年延長となり、通学予定も保留となっておりました。そして、昨年春の定年と同時に入学を申し込み、学生としての一年間を過ごしましたが、私にとって通学によって得るものは沢山あります。

その一つは、スケジュール表に定期的に通学時間を書き込むことで、自ずと他の日常行動予定も早めに確定するので生活にメリハリ効果が出来た事が大きいと思います。

第二に、学校の行き帰りには、今は学生をしていると思いながら、書店に入ったり、知らなかった街を訪ねたり、道草気分で歩くことで気持ち随分若返った気がします。

さらに、講義で今まで知らなかった知識に出会ったり、新しい知り合いが増えたり、多くの方が学園生活を有意義に過ごされているのを見たり、といろんな刺激を肌で感じられる空間を手に入れた事が本当に楽しく感謝の気持ちです。

皆さんも夫々の目的をもって入学された事と思います。欲を言えばきりがありませんが、周りにはクラブ活動などを楽しんでおられる方々も沢山居られますし、この学園にはそれぞれに充実感を得られるチャンスが溢れていると思います。

「縁ありて此処に集うことになった皆さん」、知識を与えられる喜びと、自分で何かを得る喜びを見つけて、人生の大切な時間を積極的に楽しみましょう。

ここは私のパラダイス

情報学科2年 徳田 将之

半世紀近く前、大学というところは「試験」さえなければまさに天国やなあ、と思っていたが、縁あってその「パラダイス」に昨年4月から通っている。きっかけは「けやき便り9号」に詳しいが、選んだ情報学科は当然ながら講義を聴いているだけでは終わらない。件の「試験」はないが、授業ユニット終了後の理解度をチェックされる「課題」という提出物があるので、居眠りしている場合ではない、がそのハードルの高さは「試験」とは比べるべくもないのでご安心いただきたい。

その授業で先生の説明についていけないときは、TAやSAがヘルプしてくれるが、経験から言えば何もかも「おんぶに抱っこ」と全て頼ってしまうと結局自分のためにならない、と思う。

そのヘルプも間に合わないときは、周りを見回して出来の良さそうな隣人に聞くのが交友のきっかけにもなり、また逆に教えることが出来れば自分の理解度はより深まる、とも思う。

少し前の朝日新聞・天声人語に定年退職後の元サラリーマン（筆者）として共感を覚える話があった。それは、退職後に毎日ヒマ人として過ごさない秘訣が「キョウヨウ」「キョウイク」にあるという。教養と教育ではない……

「今日、用がある」と「今日、行くところがある」の二つである由。

なるほど何も用事もなく、どこにも行くところもない、という張りのない毎日では何も起こらないことがストレスにもなり、家人との摩擦も生じかねないが、ここ（園田学園女子大学シニア専修コース）はその両者（教養と教育・今日用と今日行く）を満たしてくれる「パラダイス」である、と実感している。

幸い、交友の幅を広げるクラブ活動も幾つか用意されているので、ご一緒に第二の青春を大いに謳歌しようではないか、ご同輩！

平成25年度文学歴史学科1年生の新年会

文学歴史学科2年 青木 利明

文学歴史学科の1年生としての授業も1月で終了です。一年間の総括と懇親を兼ねて、1月20日に新年会を開催しました。参加人員20名。新年会の会場は「かごの屋」さん。美味しい料理とアルコールも出た為か、皆さんの会話が大いに盛り上がり、あっという間に予定の2時間が過ぎてしまいました。



話題の中心は、やはり4月より開始される2年生の授業の選択科目を何にするかでした。まだ決めかねている人も多いようですが、全員が顔を会わせられるのは、1月の授業が最後かも知れません。

最後に集合記念写真を撮り、4月の再会を誓ってお開きとなりました。

平成25年度文学歴史学科1年生の学外講義

文学歴史学科2年 青木 利明

文学歴史学科1年生の最後の授業は1月29日学外講義（日本史学Ⅰ大江教授）です。参加者は20数名。今回の学外講義は、「平安宮を訪ねて」と題し、平安京の史跡を巡りました。

13:30 地下鉄二条城前駅に集合、二条城を横手に望みながら神泉苑、二条公園、太政官跡などを巡り、大江先生の楽しい説明を聞きながら、有意義な半日を過ごしました。



最後は京都中央図書館にて洛中図、バーチャル平安京（平安京のジオラマ）を見ながらの説明で終了。

4月からの再会を約しての解散となりました。

国際文化学科コース 学習発表会 & 3学年合同忘年会

国際文化学科2年 樽井 敏彦

昨年の12月16日（金）の午後、国際文化学科コースの選択科目である「国際文化演習（2）」のフィールドワーク研究についての発表会と国際文化3学年合同による忘年会が実施されました。

当日、14：40からの発表会では、本講座を担当する河合教授の挨拶に引き続き、3つのテーマについての発表がありました。まず「神戸でインドを体験する」というテーマでは、神戸市内にあるインドのシク教とジャイナ教の寺院を訪問しての現地調査と神戸のインド料理店の昼食やインド人の主婦の方が作られた家庭料理を賞味して、インドの食文化を学ばれた体験（詳細については「けやき便り 第9号」にて掲載）を披露されました。



続いてトルコツアー（ツアー内容については「けやき便り 8号」に掲載）に参加して小アジア地域の人間と宗教の関係を考察された「カッパドキアの地下都市にみる人間関係と宗教」。

最後に日本、タイ、インドのシク教の寺院を訪れ、アジアにおけるシク教文化とランガ（共同体集団施設とその食事を用意する共同炊事場）の制度について研究された「シク教のランガ制度」の発表がありました。いずれも写真などを使ってわかりやすく説明され、物事や事象の本質を知るためには、実際に現地に行ってみるフィールドワークの重要性が良く理解できる内容だったと思いました。



発表会に続いて15：40からチャティーで3学年合同による忘年会が行われ、河合教授をはじめ、在学生28名と研究生3名にゲストの学習センター榊井課長、牧野さんを加えた総勢34名が参加しました。

ビールで乾杯後、日頃、なかなか話をする機会がない学生や研究生が一堂に集まったということで各テーブルでの会話が弾みました。宴会では、Y氏手作りの木製の三角形パズルや恒例となったO氏の手品（今回は二つの演目ともノームスで見事に成功）などの楽しい余興も飛び出し、終了予定の17：00までの時間があっという間に過ぎ去りました。来年度の各学年クラス



委員の発表と紹介の後、河合教授を囲んで研究生、各学年単位に記念写真を撮影してお開きとなりました。

伊勢志摩バス旅行記

国際文化学科3年 川西 公雄

大学の長い春休みを利用して、昨年に引き続き国際文化10期のバス旅行がおこなわれました。行先は伊勢志摩。同期生14名中9名の参加で、3月2日～3日の日程で楽しんできました。旅行記を書くように頼まれ、初めて「けやき便り」に投稿することになりました。

3月2日(日)新大阪駅に8時30分に集合、バスで伊勢神宮に向けて出発。新名神の土山あたりから雨が降り出しました。このバスは“湯快リゾート”の利用客用で、賢島までの往復料金が3千円で、ホテルも7,800円というお手頃価格で、乗客は、若い人が多かったです。途中で内宮前の“おかげ横丁”で昼食休憩。日曜日でもあり、昨年に遷宮したところであったせいか、たくさんの参拝客で賑わっていました。昼食は伊勢名物の“てこね寿司”や“伊勢うどん”など大変おいしかったです。隣り合わせた若い女性グループに聞いたところ、修学旅行で来ているとのこと。思い出せば、小生も小学校の時の修学旅行は、伊勢志摩でした。



昼食後、バスにて志摩のホテルに向かいました。約1時間後にホテルに到着。まだ、3時前でしたが、さっそく浴衣に着替えて大浴場でお風呂に入りました。風呂上り後、軽く飲んでいるうちに夕食の時間になり、なかなか豪勢なバイキング料理を楽しみました。食後は部屋で飲み直しました。話題は介護問題が中心で、10時過ぎにはお開きになりました。

3月3日(月)快晴。今日は帰りのバスが3時出発なので、その間にお伊勢さん観光派と鳥羽の水族館観光派に別れて行動しました。小生はお伊勢さん行きに参加。近鉄特急にて“五十鈴川駅”に向かい(鈍行では時間かかりすぎるため)、まず“外宮”を参拝。外宮は食べ物、穀物を司る神である“豊受大御神”を祀られています。建物は内宮とほぼ同じようだが、屋根の千木など細部に違いがあるとのことですが、残念ながらよくわからなかった。外宮から内宮に行くのが正式ルートとのこと、我々も外宮からバスにて内宮に向かいました。内宮では、背広で統一した集団や、昨日のような修学旅行生などたくさんの参拝客で賑わっていました。

昨年は第62回式年遷宮が行なわれました。千年以上前から繰り返し行われてきたことを思えばすごい歴史を感じました。ここは、天皇家の御祖神である“天照大御神”が祀られており、クラスリーダーの塚本さんより、「此处では“感謝の気持ち”だけお祈りするよう。お願い事はダメです」とのご指示があり、新しくなった正宮に、日ごろの御礼だけをお祈りしました。

昼食は今日も“おかげ横丁”で食べました。お土産は、やはり「赤福」です。おかげ横丁には堂々とした店構えの本店がありました。水族館組からも携帯で注文があり、幹事役の酒井さんは大変でした。

一旦、志摩のホテルに帰り、3時スタートでバスにて新大阪に向けて出発。混むこともなく、予定通り到着しました。

この旅行は、10期の世話役、塚本さん及び酒井さんが昨年の6月ごろから計画、立案していただき、そのおかげで本当に楽しい旅行となりました。最後になりましたが、厚く御礼を申しあげます。

「園田・民博連携講座」を受講して

研究生 今池 純江（文）

研究生 中村米三郎（写真）

国際文化学科3年生になり、どのような講義を受講しようかとワクワクしながら新年度を迎えました。年度初めに配布していただいたシラバスで「園田・民博連携講座」が行われることを知りました。この講座は、国立民族学博物館（民博）としても初めての大学との連携です。また、シニア専修コースにとっても授業が終了した2月に半期講座として連続開講されるという初めての試みでした。講義内容も興味のあるものでしたので、早速、受講手続きをとりました。

こうして、第1回目の授業が行われる1月24日を迎えました（一日に午前・午後と2時限の講義があります）。講師の先生方は、民博に所属される優秀な研究者の方ばかりで、どの講義も、丁寧で、わかりやすく、興味深く学ぶことができました。質問にも丁寧に答えて頂きました。

それぞれの国々の地理、気候風土、人々の詳しい生活の様子、民族文化の伝統、現在の様子などを、現地で長期間調査、そして研究して得られた知識を基に、詳しく講義してくださいました。

1回目の講義「変わりゆくモンゴル草原の暮らし」では、草原と家畜の関係、家畜の雌雄比、土地法や現在の暮らし等を学習しました。

2回目の講義ではマレーシアの先住民オラン・アスリや森林伐採のこと。

3回目の講義「婚礼を通して見るインド社会の現在」では、インドの婚礼プロセスに驚きました。

2月14日の4回目の講義は河合先生引率のもと、万博記念公園そばにある民博において行われ



ました。珍しく朝から大雪で道中は大変でした

が、殆どの方が遅れることなく出席されました。

講義の開講に先立って、開講式を行い、本学

の河合先生と民博の八杉先生のご挨拶がありました。

講義では、非文字文化を発達させたアフリカ地域が持つ豊かな口承文芸、音楽、造形から「アフリカ社会の持つ潜在力」

について教わりました。

その後、講義を担当された飯田先生、河合先生とともにお茶を頂きながらの和やかな雰囲気の中で質問会が行われ、活発な会話が弾みました。

民博での締めくくりは、民博の見学会で、飯田先生が1時間ほど民博内を案内してくださいました。

貴重な展示物は勿論のこと、工夫された展示方法にも感心し、ゆっくりとまた訪れたいと思いました。



お別れに、河合先生、飯田先生と参加者全員で記念撮影をしました。



貴重な講義、展示物鑑賞とともに、忘れられない一日になりました。河合先生、講師の先生方、民博の職員の方々にお礼申し上げます。

(なお、アフリカのことを教えて頂いた飯田先生は、翌日から一か月の予定でアフリカに調査に行かれるというお忙しい日でした。)



雪の民族学博物館

5回目は「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨文化」についての講義でした。捕鯨の歴史、日本における捕鯨の展開、イヌピアットの捕鯨文化などを学びました。「知る」ということは大切なことだと思いました。

6回目、最後の講義は「イタリアのもう一つの顔：家族と地域社会」ということで、食事、家族事情、地域社会のことなどを詳しく講義していただきました。

その後、講義の一環として、ミニコンサート「イタリアの歌」が本学音楽ホール（1号館4階）で行われました。歌は本学教授の辻本健市先生、講師の吉武貴子先生、伴奏は講師の大槻知世先生でした。先生方の素晴らしい歌声にうっとりしました。



そして、先生方と記念撮影を行いました。



6回にわたって行われた「園田・民博連携講座」は、お茶を頂きながら先生方との懇談会で締めくくりました。



講義を通じて、人間が生まれ出たその土地で生活する術こそが文化ではないかと思いました。後に、新聞などで講義していただいた国の記事を見ると、見方が少し変化したように感じます。色々な見方をすることが大事なことのだと感じました。ぜひ、それらの国々を訪れてみたいものです。

河合先生、民博の先生方そしてこの講座に関係して頂いた皆様方に心からお礼を申し上げます。今年度も、「園田・民博連携講座」を受講することにしました。今から楽しみです。

平成25年度「園田・民博連携講座」実施項目一覧表

第1回1月24日（金）「変わりゆくモンゴル草原の暮らし」小長谷有紀（民族学博物館教授）	
講義内容	夏に緑の絨毯のような草原が広がるモンゴルは、いかにも牧歌的に見えるけれども、民主化以降20年を経過し、現在では世界的な経済成長をほこる国の中で大きな変化が生じている。伝統的な暮らしとその変容から現代世界を理解する。
第2回1月31日（金）「多民族国家マレーシアの現在」信田敏宏（民族学博物館准教授）	
講義内容	マレーシアには起源を異にする様々な民族が暮らしている。本講義では、特に、先住民族であるオラン・アスリの生活文化に焦点を当てながら、多民族国家マレーシアの現状を映像と共に紹介する。
第3回2月7日（金）「婚礼を通して見るインド社会の現在」三尾稔（民族学博物館教授）	
講義内容	盛大なことで知られるインドの婚礼は、近年ますます華麗に行われるようになっていく。そこにはインド社会の今の姿や人びとの思いが写しだされている。現地調査に基づく映像も交え、インドの婚礼の変わりつつある部分と変わらない部分について考えてゆきたい。
第4回2月14日（金）「アフリカ社会の潜在力」&民博見学 飯田卓（民族学博物館准教授）	
講義内容	多くのアフリカ地域の諸社会は、文字を発明しなかったものの、豊かな口承、音楽、造形を発達させた。その豊かさには、多くの先進国が進歩のモデルを失ってしまったいま、大きな期待が寄せられている。アフリカの過去と現在から、われわれの未来を考える。
第5回2月21日（金）「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨文化」岸上伸啓（民博副館長・教授）	
講義内容	北極海に面するアラスカ北西海岸地域には、先住民イヌピアットが住んでいる。彼らの現在の生活とホッキョククジラ猟について紹介するとともに、温暖化が捕鯨活動に及ぼしている諸影響について講義する。
第6回3月1日（土）「イタリアのもう一つの顔：家族と地域社会」宇田川妙子（民博准教授）	
講義内容	イタリアは、様々なステレオタイプで語られる国の一つである。たとえば、家族はとても大切にするが、自分勝手に公共的な精神に欠けるといふ。彼ら自身も、自らをそう嘆く。しかしその裏側には別の顔もあることを、本講義では紹介したい。
3月1日（土）「イタリアの音楽」辻本健市（園田学園女子大学教授）吉武貴子先生、伴奏は講師の大槻知世先生 1号館4階音楽ホール	
講義内容	雑談を交えながら、イタリアの歌を楽しみます。歌を通してイタリアへの理解を深めましょう。

（注）本稿は、園田学園女子大学文化人類学研究室2014『旅とフィールドワーク3号』に掲載した「園田・民博連携講座を受講して」を加筆・修正したものです。

研究協力 「手洗い教室」

園田学園女子大学人間健康学部人間看護学科

山本恭子 木村保司 田中 響

平成14年1月から3月にかけて「地域に向けた手洗い指導の拠点の構築 ～手洗い教室の効果の検証～」をテーマとした研究について生涯学習センターの受講生の方々にご協力いただき手洗い教室に参加していただき、有難うございました。

インフルエンザやノロウイルス感染症では、ほとんどの患者様が家庭において療養されることから、地域における感染対策が重要であり、手洗いやうがい推奨されています。そこで私たちの研究では地域に向けた手洗い指導の拠点の構築のための準備として、手洗い指導方法の検証を行っています。

この度、皆様には手洗い教室を受けていただいて、手洗い教室の前と後で手洗いをさせていただいたときの除菌効果を調べさせていただいて、手洗い教室の効果を検証しました。



「手洗い教室」ではインフルエンザやノロウイルス感染症について簡単な説明を聞いていただいた後、蛍光ローションを用いて洗い残しやすい部分を見つける実験を行い、手順を示したポスターを使用して効果的な手洗い方法を説明しました。

効果的な手洗い方法



手洗い教室の前には手のひらや甲を擦る人は多くても、指の間、指先、親指、手首はほとんどの人が擦り合わせてなかったのですが、手洗い教室手洗いの後にはほとんどの人が洗い残さなく擦ることができていました。実際に手洗いをさせていただいて、手の細菌を寒天培地で培養させていただきましたところ、手洗い教室前には手洗いをすることで逆に手の表面の細菌数が大幅に増加してしまった人が大勢で、驚き!!! でしたが、手洗い教室後の測定では大きな増加は見られませんでした。石けんをつけてこすり合わせることで、毛穴に隠れていた細菌が手の表面に出てきます。それをしっかりと洗い流すことで、上手な手洗いができるのです。

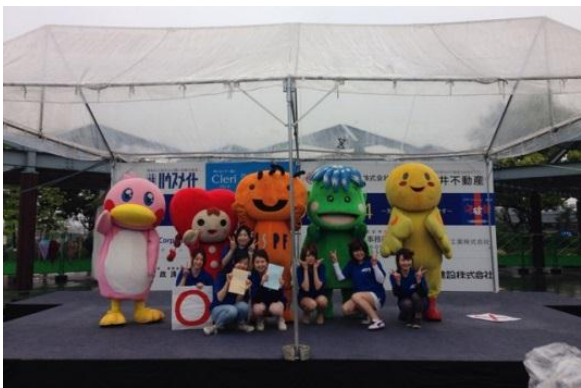
研究を引き続いて行い、研究論文としてまとめ、地域での手洗い指導の拠点として役立つことができるようがんばりたいと思いますのでよろしくお願いします。

「Center of community」

地域連携推進機構 榎本 匡晃

本学は女子大学では珍しく、いち早く学校を取り巻く塀を撤去し地域との一体感を大切にしてきました。地域に開かれた大学として、総合生涯学習センターを基軸に公開講座・テニスカレッジ・グラウンド解放等、地域に密着したさまざまな学びの場の提供を進めてきました。また、平成14年度にはシニア専修コースをスタートさせ、先進的取り組みとして高い評価を得てきました。

これらの活動が認められ、園田学園女子大学は、全国の女子大学として唯一、平成25年9月文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されました。そして「地域連携推進機構」という部署では、学生の社会人基礎力を養成するための地域貢献や社会活動・スクールボランティア等の支援や、教員の地域志向教育研究の補助を主な業務としながら、「Center of community（地域コミュニティの中核的存在）」としての役割を担うことになりました。



尼崎商工会議所の行事「あまテラサカス」に
学生がボランティアとして参加

早くから都市化が進んだ尼崎市は、他都市に先んじて、インフラの老朽化・人口減少や少子化・高齢化に伴う様々な課題に直面している「課題先進都市」と言えます。本学はこれらに対し、尼崎市の総合計画に沿って地域のみなさまと手を取り合って乗り越える「政策先進都市」を目指して地域の課題解決に寄与します。

尼崎市の多様な地域課題に対し、大学の学科編成にあった「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」を中心に、「まちづくり解剖学」という研究会を2か月に1回開催し、大学と地域が交流する場をもち、地域の課題を受け止め、調査・研究に携わり解決を目指しています。



「まちづくり解剖学」で本学教員が発表

また、地域連携推進機構の中に大学と地域をつなぐ窓口である「まちの相談室」を開設しています。これは教員の指導のもとに、学生地域連携推進委員が主体となって運営する大学と地域のコミュニケーションの場です。地域の情報を収集・蓄積するとともに、地域が必要としている情報を学内に発信し、連携活動の活性化を図ります。

さて、本学では、学生が教室で学んだことが地域社会でどう活かされるかを実感することで理論と実践が結びつき、さらに次の学びへと発展していくという「知識を知恵へと変える力」を「経験値」と捉えています。

地域連携推進機構では、経験値を十分兼ね備えているシニア専修コースのみなさまにも、社会経験を積み重ねようとする学生のサポートをしていただければと考えています。学生を温かい目でフォローし、地域での活動を支える環境づくりにぜひご協力いただければと思っております。

初笑い 天満天神繁昌亭

研究生 水原 剛

朗 朗 と

情報学科2年 芝田 幸子

1月の下旬 文歴9期会の仲間20人で新年会を兼ねて天満天神繁昌亭に行きました。JR天満駅に集合し、まず初めは全長2,6kmで日本一長いといわれる天神橋筋商店街の散策です。

地元にお住いのガイドさんの案内で、まずはNHKの朝ドラでもお馴染みの天満市場から始まり、約600軒のお店が並ぶ商店街は壮観です。その前をみんなでワイワイ、がやがやと賑やかに騒ぎながら行進しました。ほどなく天満宮が見えてきます。隣がお目当ての天満天神繁昌亭です。ここは平成18年に上方落語協会が開設した上方落語の定席で全218席、定員256人の落ち着いた寄席です。



たまたまこの日は同じシニアの加古川いなみ野学園の方も来られていて、立見も出る程の盛況でした。2階の最前列からだとは本当にすぐ眼の下に出演者が見えます。若手からベテランまで8人の落語家さんと漫談や曲独楽も交え、仲入を挟んでの3時間はとてもテンポよく、特にトリの笑福亭仁智さんはさすがにお上手で皆さん大笑いでした。昼席の番組は週替わりで前売り、65歳以上の方の2,000円は値打ちがありますよ。是非一度 皆様も足をお運び下さい。

初笑いを堪能したあとは皆さんで分散会。幹事団はガイドさんにお礼を言ってから軽く一杯、お疲れ様でした。

春休みの間に、我が家に置いてある孫の机を片付けました。小学生の時には、毎日のように遊びにきていたのですが、中学生になってここ1年は、学校帰りに顔を見せるだけになりました。おもちゃや本類を片付けていましたら、『音読プリント』が出てきました。「陰山メソッド」の中核と言われている書物です。小学生用ですが見入っているうちにハマッてました。

3年前までは金融機関の窓口で、毎日100人以上のお客様対応のために1日中会話や説明に喋りまくっていました。現在は人との会話は1時間くらいです。声を出して本を読む、「脳を活性化させる」事では効果が注目されているそうです。

毎日名文を音読すると、美しい表現、豊富な語彙が自然と頭に入ってくるそうです。冊子には歌舞伎の長文の名セリフや、楽しい言葉遊び、詩、小説、短歌、俳句、古文、漢文など幅広いジャンルの作品が記載されています。声を出した時にリズム感のある文章でとても楽しめます。堅苦しく勉強のためと思わず、毎日負担にならないよう1～2ページなら続けられそうです。

先日亡くなられた、「磯野波平」役の声優永井一郎さん著書で、『朗読のヒント』・『朗読のススメ』を読みました。京大文学部を卒業後、電通勤務。その後俳優、声優、作家等マルチに何でもできる。永井さんの朗読を聴いていると、心を感じます。朗読とまではいきませんが、お金も掛からないし、とてもお得な趣味が出来て嬉しいです。今年は頑張って、自分磨きを全うします。



高山植物と花を楽しむ佐渡島

文学歴史科3年 橋本 秀明

標題は、頻繁に利用するツアー会社のツアー名である。妹に誘われ、姉と3人で参加した。

5月9日から三泊四日の旅。参加者は総勢18名。他に馴染みのリーダーと添乗員。島ではバスガイドと山ガイドが案内。島への往復は団体行動。島にて山行と観光と別行動。兄弟3人は山行に参加。以下に行程を示す。なお観光は省略。

・5月9日

大阪駅[8:10 発]####(北陸線：サンダーバード5号)####金沢駅[11:03 着/乗換/11:16 発]####(北陸線：はくたか11号)####直江津駅[13:00 着]====(路線バス)====直江津港[13:40 発]~~(佐渡汽船：カーフェリーこがね丸)~~佐渡・小木港[16:20 着]……たらい舟体験==両津(ホテル泊)

・5月10日

両津==佐渡金北山縦走[ドンデン山荘…マトネ…イモリ平…あやめ池…金北山…マツムシ平…白雲台]====両津(ホテル泊)

・5月11日

両津==アオネバ溪谷縦走[登山口…アオネバ溪谷…林道…ドンデン池…尻立山…ドンデン山荘]====加茂湖(昼食)====両津港[14:25 発]~~(佐渡汽船：ジェットフォイル)~~新潟港(万代島FT)[15:30 着]====[路線バス]====新潟港(山の下埠頭)[16:30 発]~~(新日本海フェリー：船内泊)

・5月12日

~~~敦賀港[5:30 着]====(路線バス)====敦賀駅[6:53 発]####(北陸線：サンダーバード2号)####大阪駅[8:22 着] 解散

次に、思いつくままトピックスを記す。

### ●電車・船

大阪から北陸方面の旅は初めてなので、乗物もすべて初乗り。新日本海フェリーのような大きな船(2万トン)は、今まで乗ったことがない。

両津港～新潟港を65分で結ぶジェットフォイル(水中翼船)は快適。時間短縮できるが、料金はフェリーに比し倍ぐらい掛かる。

### ●たらい舟

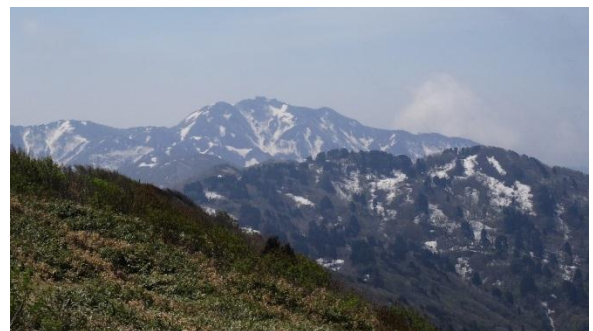
3人まで乗せる面白い乗物。全部で10基ほど。漕ぎ手はすべて女性(年齢は様々)。乗っている時間は10分弱。素人が漕ごうとしても同じ場所をぐるぐる回るだけで前へ進まないとのこと。写真は、漕ぎ手同士が寄せ合いカメラを相手の漕ぎ手へ渡し撮ってもらったもの。



右が筆者

### ●山

佐渡島は、さつまいもを2個ずらしてくっつけたような構造である。北側が大佐渡山地、南側が小佐渡山地。中央部は平野となっている(稲作地帯)。標高500M以上の山が多い。金北山は大佐渡山地にあり、佐渡島の最高峰(1,172M)。



一番奥が金北山

佐渡金北山縦走は、13.6KMの行程で途中雪道が相当に残っていた。雪が無くなるのは6月半ば。あやめ池から金北山に登るとき、遠くから見ると雪の壁が垂直のようであった。ステップが深く切っておりロープで支えながらガイドの指示に従い無事登攀。斜度は凡そ30～40度とのこと。雪がないときは、ここは使わないとのこと。なお、佐渡島には金華山という山は無い。

## ●高山植物

冬を除いて多くの植物が咲く。金北山縦走では、至るところカタクリだらけ。こんなにカタクリが群生しているのは他では聞かない。食傷気味になるくらい。また、サイズが本州のものより1.5倍大きい。



花卉が開いた状態(朝は閉じている)

アオネバ溪谷縦走では、二輪草(3輪付くのものもある)、シラネアオイの群生がお出迎え。



シラネアオイの群生

## ●果物

種々の果物があるが、中でも柿(種無し渋柿)、洋梨(ル・レクチェ)が有名。一つの柿をゼリー状にしたものがホテルのデザートにあった。富有柿よりも大きい。洋梨のゼリーは美味しい。

## ●映画

1946年1月14日、佐渡島高千海岸北立島にイギリス軍輸送機「ダコタ」が不時着。つい先日まで敵国であった飛行機が空から降ってきて辺りは騒然。村長の決断でイギリス人を迎え入れ、機体の引き上げ・修理・石の滑走路をつくるなど、村人総出でイギリス人を再び大空へ飛び立たせるのに協力。40日間におよぶ村人とイギリス人との交流を描いた映画がある。

映画「飛べ!ダコタ」は、最新作としてレンタルできる。是非見てほしい。感動します。

## ●山のガイド

どんなガイドが来るのかと思っていたら30代の若き男性。上り下り平坦すべて同じペースで歩く本当に素晴らしいガイド。本業は味噌作り(両津港の売店にも卸している)。



前列右から二人目がガイド

## ●ホテル

2泊とも秋津温泉「両津やまきホテル」。夕食の量は多く、食べきれないほど出てくる。殆どの方が何かを残していたようだ。珍しいのは、食事をしながら一人用の釜でご飯を炊くこと(約30分)。



ホテルから観た両津湾・加茂湖・水田

終わりに、ツアーに参加する楽しみの一つに知らない人との交流がある。今回自宅で絵画同好会・歴史同好会を開いている方と一緒に、いろんな話をさせてもらった。園田学園女子大の教授も知っていて、田辺名誉教授とは友人関係であるとか。「関西歩け歩けNPO協会」の会長も付き合いがあるとか。人との繋がり、どんな形で繋がっているのかわからない。

皆さん、ツアーの旅に出よう。

2014年5月15日

## 紫式部展鑑賞と石山寺散策

研究生 遠藤 明

清流瀬田川畔、東寺真言宗 石山寺の「紫式部展」(3月18日～6月30日)に、3月19日(水)、出かけました。久しぶりに11人が勢ぞろい、何だか懐かしく思い、お天気もよくて、大変清々しい気分を味わいました。

山門前(午前10時30分)で、ボランティア(優しい小母さん)と落ち合い、出発です。

石山寺は、天平宝字5(761)年、聖武天皇が奈良に東大寺を造立した時、大仏鑄造用の金を得るため、僧良弁(ろうべん)に祈願させ、如意輪観音を祀って一字(いちう)(一つ屋根の下で暮らす)を立て、その時の草庵がもとになって天平19(747)年に石山寺が開かれたと言います。『石山寺縁起絵巻』

山門は、入母屋造り、瓦葺きの八脚門、石山寺と書いた大きな提灯が掲げられ、門の左右の、運慶、湛慶の作、仁王像が迎えてくれました。

参道を歩むと、両サイドには、三つ葉つつじや霧島つつじが植えられていました。

石山寺のご本尊は、「如意輪観音菩薩」。ご本尊の像内から、平成14年に、四つの胎内佛(金銅造り)と水晶製五輪塔が発見されたそうです。いずれの仏像も、高さは約25cm程です。

一つは、如来立像(飛鳥時代)一つは、菩薩立像(白鳳時代)一つは、観音菩薩立像(白鳳時代)一つは、観音菩薩立像(天平時代)です。その四つの仏像は、幅約50センチ、高さ約50センチ、長さ凡そ1メートル50センチぐらいの陳列に治められてあります。それぞれ比べながら眺めることができます。どの佛様も「愛らしい姿」をしているそうです。(でも、私には、漠然とそうかなあと思うぐらいです)。

平安時代、花山法皇によって、西国三十三所の観音霊場が選定され、その第十三番の札所になり、「石山詣で」と呼ばれ、多くの参拝者を迎え入れて現在に至っていると、お寺の説明書きにありました。



久しぶりに11人が勢ぞろい

「豊浄殿の宝物引換券」裏には、「紫式部は、石山寺に1週間の参詣をされ、本尊如意輪観音菩薩に、物語創作の祈願をされた」そうです。「時に、寛弘元(1004)年8月15日、対岸の金勝山より差し上る明月が、眼下の瀬田川に映る風情を眺めて」、「今宵は、十五夜なりけりと思ひ出でて、殿上の御遊恋しく・・・」と。「筆をおこされたのが、須磨、明石の二帖」だそうです。

昔から、源氏物語を読むに当たって、「楽に読める」とか、「楽しく読める」とかの工夫が練られてきたそうです。その一つが「絵によって創造力を高めて、物語の進行を楽しむという方法」。

「各巻から選ばれた名場面を、当代の代表的な絵師が描いた『源氏絵』は、画帖や屏風に構成されて」きたといえます。私も『源氏絵』購入。

『源氏絵』を鑑賞する場合、「物語の中のどの場面か」という大きな観点と同時に、その絵が、どのような伝統のもとに描かれ、さらに、どのような絵師個人(あるいは注文主かもしれない)の創意工夫があるかを比較しながら見ると、一層の興味がわき、源氏物語の世界により深く入ることができる」と、書かれてありました。

やがて、遅い時間の昼食となり、「しじみ料理」(釜飯)をいただきました。

普通、家庭では、砂が入っている場合もあるものですが、全くそういう心配は無用でした。

小さい一つ一つの貝殻の中から出てきた貝の身は、その実だけが、どこか他の場所から現れたかのようにありました。美味しくいただきました。食事の後、場所を変えて、お茶を。その御饅頭が、また美味しいのです。

「石山の 石にたばしる 霰(あられ) かな」(松尾芭蕉)。「たばしる」の「た」は接頭語、「勢い激しく飛び跳ねる」こと。御餅の中に、餡がいっぱい、所々に外からつまめるほど大きい小豆が見えていて、中央部には、くるみの餡。それが、「たばしる」。私のコーヒーのあてです。(終)

### 情報誌への投稿のお願い

「けやき便り」編集クラブでは皆さんからの投稿や情報提供をお待ちしています。内容については、たとえば次のような事柄で、写真やイラストなどを含めて頂いても結構です。

#### ◆各クラスや学科コース便り

特別授業や行事、各種の活動報告や紹介

#### ◆クラブ便り

クラブ紹介、クラブ行事や活動の報告

#### ◆自由投稿

旅行記、ボランティア活動、趣味、個人の研究テーマなどの紹介

#### ◆郷土、地域(尼崎、塚口、園田)の紹介

郷土の歴史、古い神社・仏閣、公共施設  
街並みや料理店、地域のニュースなど

投稿は2号館1階の総合生涯学習センターに設置の「けやき便り」投稿箱あるいは下記のメールアドレスに文書を添付して送付ください。

[ttarui@mx5.canvas.ne.jp](mailto:ttarui@mx5.canvas.ne.jp)

尚、投稿された原稿は、誌面の都合により変更・修正する場合や編集会議の審議により掲載できない場合(宗教・政治に関するものや公序良俗に反するものなど)がありますのでご了承ください。

## 「けやき便り」編集クラブの新代表として

国際文化学科2年 樽井 敏彦

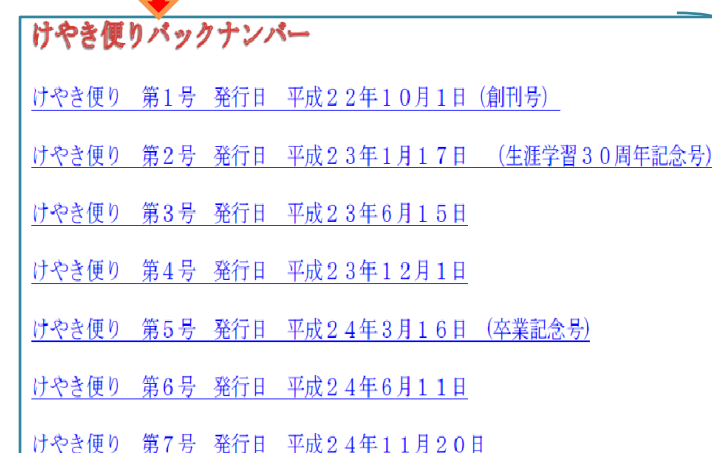
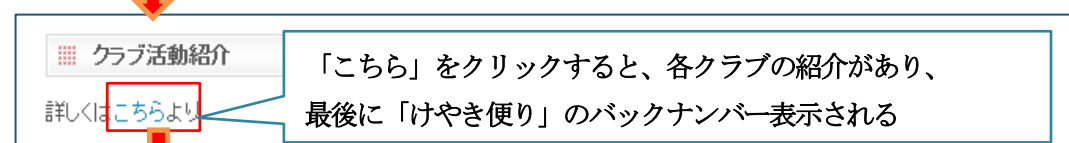
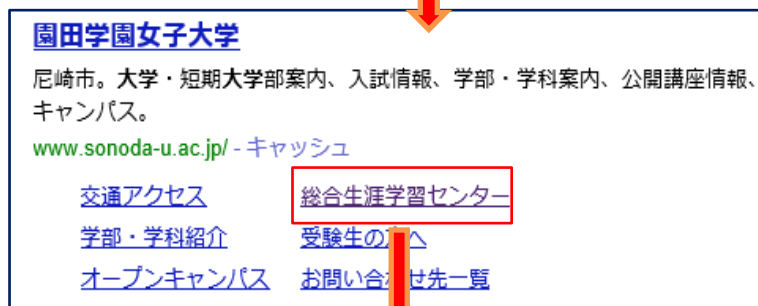
今年から「けやき便り」編集クラブの新しい代表を務めることになりました。私が「情報誌」というものに初めて関わったのは中学生の時です。国語を教えていた担任の先生から、「報道部」への入部を薦められたことがきっかけでした。

当時の印刷物のほとんどはガリ版印刷で、ロウ引きの紙をヤスリ盤に乗せ、鉄筆で文字や図形を刻んで印刷原版を作成し、原版の下に紙を置き、網をかぶせたうえでインクを塗ったローラを転がして印刷していました。印刷したばかりの誌面からインク特有のツンとした刺激のある匂いが漂ってきたのが今でも懐かしく思い出されます。

我々が現在発刊している「けやき便り」は、シニア専修コースの唯一の広報誌であり、学園のいろんな情報を仲間に伝えて、学園の内外に向かって発信していくという社会的責任と歴史的資料や記録として残していくという役割も担っています。このように考えると情報誌作りは大変なのですが、読者のほうは気まぐれで面白くなかったり、読みづらい内容であると見向きもしてくれなくなります。せっかく一生懸命作るので、読者の皆さんの読んだあとの感想がとても気になるところです。「今回の情報誌はとても面白かったよ」といわれればほっとした気持ちになります。

現在、「けやき便り」は、学校側のご支援と編集委員の方々の負担により無料で皆さんにお届けしていますが、場合によっては有料化を検討していく必要もあるかと思います。そうすると今まで以上に興味ある内容にしていかなければ誰にも購入してもらえないことにもなりかねません。更なる工夫や努力を重ねて、より多くの人たちに親しんで読んで頂けるような情報誌作りを目指していきたいと思っています。皆さま方のご支援よろしくお願い致します。

「けやき便り」の全号のカラー版を  
ホームページでご覧いただけます



すべてのバックナンバーが  
表示される

「けやき便り」編集クラブ